

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 阿久津 由佳	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) カリキュラム改革</p> <p>2016 年度に最も力を注いだのは、英語カリキュラム改革案の策定である。2017 年に本格実施予定の大規模なカリキュラム改革に向けて、他の英語部会のメンバーと協力して、具体的なカリキュラム改革の詳細について決定し、実施可能な段階にまで仕上げた。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none">①新カリキュラムの詳細について検討し最終案を作成：新必修科目の内容、選択科目の科目名及び内容、履修の決まり、教科書、シラバス、共通テスト、副専攻制度、スケジュールなどについて英語部会で検討し案にまとめた。②新カリキュラムについて、非常勤講師にむけての説明会を開催：両学部で同一のカリキュラム、ルールとなるため、その具体的な内容や計画について 6 月 19 日と 7 月 9 日の二日間説明会を実施した。そのための資料作成や準備等も行った。③予定していた共通テストのパイロット試験の実施(2015 年度)後、その課題を検討。代替案を作成し、新試験のパイロットを実施した。④新カリキュラムの学生への導入・周知のために、履修モデルの作成を行った。⑤一元化委員会委員として英語部会の作成した案についての説明等を行った。 <p>(2) 教育</p> <p>現行の授業の改善に向けての取り組みも引き続き行っている。2016 年度も、前年度までのデータ（社会で必要とされている英語力に関するデータ、TOEIC 問題の傾向の分析、学生が能動的に学習できる英語授業の形態についての実験的取り組み等）を活かし、学生からのニーズの高いビジネス英語および TOEIC に頻出する語彙・表現を、リスニングの形で本格的に授業に取り入れ、学習形態についても、学生の能動的な受講を促す工夫を続けた。授業評価及び個別のアンケートにおいても特に「ビジネス英語が有益」とのコメントが多く、成果が出ていると考えている。</p> <p>また、授業外での積極的学習を促すため、授業時間外に希望者を対象に個別の英語学習相談を実施し、各自のレベルや適性、目標に合わせた学習計画作成のアドバイス等を行うことも継続している。</p> <p>(3) 研究</p> <p>前年度に引き続き英語の語用論的要素をどのように学校英語教育に取り入れるかについての研究を進めている。2016 年度は、SINGAPORE 2nd International Conference on Studies in Law, Education, Business and Corporate Social Responsibilities (LEBCSR-17)に参加し、最新の研究について知見を深めるとともに、What pragmatic information do Japanese English learners get from reading English conversation scripts?というタイトルで論文発表を行った。この研究は、日本人英語学習者が、英会話のスクリプトを読んでどのくらい語用論的な情報を得ているかを調査したものである。来年度はこの論文をベースにして、より大きな規模で、少し違う側面からアプローチした研究を行いたいと考えている。</p>	

2 その他の事項

- ・英語部会長として、カリキュラム改革をはじめとする英語化関連の課題解決のための英語部会の開催、運営、まとめなどを行った。
- ・一元化検討委員会メンバーとして、新英語カリキュラムに関する検討を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

2017年～2018年にかけては、新英語カリキュラムの本格実施への対応が一番大きくなると考えられる。実施しながら、問題点があればそれに対応し、また問題なく進められた内容についても評価をしながら進めていきたい。

また、個人の研究についても、昨年度の研究結果をより発展させた形で別の論文を作成し発表したいと考えている。